

(仮称) 和泉市北西部認定こども園整備基本計画 (国府幼稚園・和泉保育園の統合園) 概要版

1. 基本計画策定の目的

本市では、平成30年に「公立保育所・公立幼稚園のあり方について（以下「あり方」）」、また、令和元年には「公立保育所・公立幼稚園のあり方に基づく整備方針（以下「整備方針」）」を策定し、施設の拠点園化及び再編整備を進めています。

国府幼稚園・和泉保育園の認定こども園化についても、あり方・整備方針に基づき、拠点園の整備の一環として行われるもので、具体的には、国府幼稚園、和泉保育園を統合し、教育センター等跡地に公立認定こども園を移転再整備する予定です。

本計画は、これまでの検討課題を整理するとともに、施設整備にあたっての検討を進め、今後、基本設計や実施設計を行う際の基礎的な内容を示すものとして策定するものです。

2. 位置図



(C) OpenStreetMap contributors

3. 施設の定員の考え方

認定こども園は、幼稚園部分の定員（1号）と、保育園部分の定員（2・3号）を定める必要があります。

北西部認定こども園の定員案

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
1号	—	—	—	15人	15人	15人	45人
2・3号	9人	15人	24人	30人	30人	30人	138人
合計	9人	15人	24人	45人	45人	45人	183人

(参考)国府幼稚園・和泉保育園 定員数とR5.4月時点の園児数

	定員	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
国府幼稚園(1号)	105人	—	—	—	11人	21人	17人	49人
和泉保育園(2号・3号)	120人	6人	10人	20人	21人	30人	30人	117人
合計	225人	6人	10人	20人	32人	51人	47人	166人

○1号（幼稚園部分）定員について

国府幼稚園について園児数の減少が見込まれますが、北西部認定こども園では預かり保育を実施予定であり、一定の需要増加が見込まれることから、定員を45人とします。

○2号・3号（保育園部分）定員について

和泉保育園について、定員と同程度の園児数が今後も見込まれますが、市全体の保育ニーズは増加傾向にあり、北西部地域においても需要増加が見込まれることから、定員を138人とします。

国府幼稚園・和泉保育園の園児数の推移

令和5年度までの実績

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
国府幼稚園 (定員105人)	79人	79人	79人	57人	58人	49人
和泉保育園 (定員120人)	130人	125人	126人	126人	123人	117人

令和6年度以降の見込

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
国府幼稚園 (定員105人)	41人	34人	26人	19人
和泉保育園 (定員120人)	118人	116人	114人	112人

※指数平滑法による推計

4. 北西部認定こども園整備の基本方針

北西部認定こども園の整備にあたっては、次に掲げる方針に基づいて教育・保育サービスの提供及び施設の整備を図っていきます。

(1) 安心・安全な施設整備

北西部認定こども園は、子どもたちが日々の生活や遊びを安全に、安心しておくれるように、十分に配慮した施設の整備・備品の配置等を行います。

(2) 多様な保育サービスの提供

北西部認定こども園では、延長保育事業、一時預かり事業の実施、また、特別な配慮が必要な児童への対応を強化し、教育・保育のセーフティネットとしての機能を果たせるように施設整備を行います。

(3) 多くの人の利用に配慮した人にやさしい施設の整備

北西部認定こども園は、ユニバーサルデザインを基本とし、子どもや職員だけでなく、保護者や来訪者等あらゆる人の利用に配慮した整備を行います。また、子どもたちのけがや事故防止への配慮を基本とした施設整備を目指します。

(4) 地域に開かれた認定こども園

これまでも国府幼稚園・和泉保育園では、地域に開かれた行事や保育を実施してきました。近隣の高齢者施設訪問や学校園との交流、園庭開放など地域とのつながりを北西部認定こども園でも引き継ぎ、活かしながら、認定こども園と地域の結びつきを強め、地域全体で子どもを育てる意識の醸成を図ります。

(5) 市全体の教育・保育の質の向上

北西部認定こども園では、公開保育研修や外部講師を招いた講義等、研修機能の充実を図るための施設整備を行い、市内保育士等のさらなるスキルアップと市全体の保育の質の向上を目指します。

(6) 環境にやさしい施設整備

北西部認定こども園は、SDGsの要素を取り入れ、省資源、省エネルギー等できる限り環境にやさしい施設整備を目指します。

子育て支援センター「ぶらんこ」

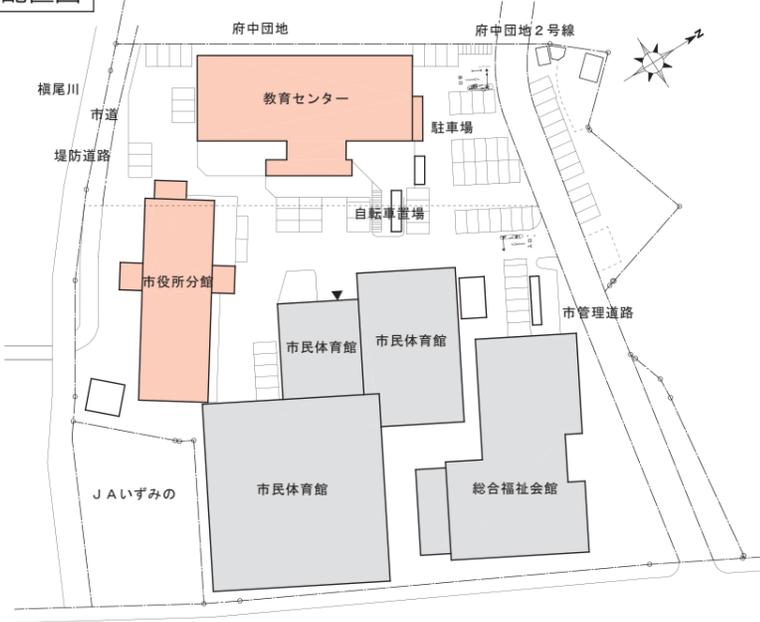
現在、芦部保育園内に、市が運営する子育て支援センター「ぶらんこ」を設置しています。在宅の未就園児を対象に親子が自由に遊んだりおしゃべりしたりできる場として、子育て情報の発信、子育て相談、子育てサークルの支援などを行なっています。

芦部保育園は令和7年度末で移転民営化されるため、令和8年度は別園に仮移転し、令和9年度に完成する北西部認定こども園内に、市が運営する子育て支援センターを設置する予定です。

市が運営する地域子育て支援拠点として、民間の地域子育て支援拠点と連携し、地域の未就園児支援の中核的役割を担います。

5. 全体配置図

現況配置図



全体配置計画図



工事スケジュール

令和7年度 (2025年度)												令和8年度 (2026年度)												令和9年度 (2027年度)									
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
準備工事												解体撤去工事												園舎新築工事									
解体撤去工事												体育館駐車場整備工事												外構工事									
解体撤去工事												体育館駐車場整備工事												体育館駐車場舗装工事									
解体撤去工事												体育館駐車場整備工事												子ども園運営開始									
解体撤去工事												体育館駐車場整備工事												子ども園運営開始									

※ 基本計画策定段階でのスケジュールであり、今後の基本設計・実施設計等で変更となる場合があります。

6. 平面計画

【園舎の平面計画】

○ こども園玄関アプローチ、調理室食材搬入口、子育て支援センター玄関は、それぞれ専用出入口を設ける為、メイン出入口である北側へ配置

○ 園舎内を各エリアに分けて配置

- 1階： 乳児エリア、管理エリア、調理エリア、共用エリア、子育て支援センター
- 2階： 幼児エリア、遊戯室多目的エリア、共用エリア

○ エリア内での動線の交差を避け、廊下が長くなり過ぎないように、共用エリア(廊下・階段)を建物の中心に配置

乳児保育室
送迎や避難時を考慮し1階に配置
南向きの明るい保育室
カバー付き照明や床暖房など乳児に適した設備環境を整備

沐浴室
保育室からも見通せる窓を設置したドライ仕様の沐浴・トイレスペース
年齢に応じた衛生機器を設置
廊下に面することでオムツや着替が置けるパズル式の棚を計画

調乳室
ガラス貼で保育室が見えるつくりとし、園児からも保育士の姿が見えることで安心感を与えるつくり

医療室
感染症対策時や医療処置が必要な場合に対応できる医療的ケア児に配慮したトイレ付の部屋を設置

一時預かり保育室
延長保育室としても利用できるように玄関の近くに設置
他の保育室と動線を分けられる計画とする

職員室(事務室)
園内の安全管理のため、外部からの来訪者が確認でき、施設全体の様子が把握できる場所に配置
通園路や玄関、園庭が見通せる計画とする

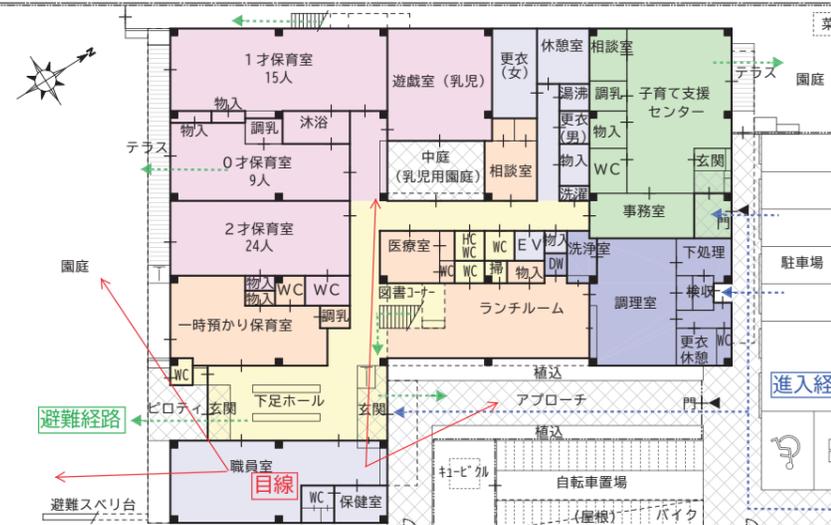
保健室
保育士の目が届く事務室内に設置
休養、静養可能なスペースとし、専用のトイレや手洗を設置

屋上
プール置場としてシャワー(温水)を設置
園舎で囲まれた空間により周囲からの視線をカット、可動式の日除けテントを設置

保育室(3才~5才)
南向きの明るい保育室
生活習慣の自立を促せる各自の着替えや午睡布団、カバンや遊具等を収納できる物入や棚を設置
同じ年齢の保育室間に扉やパーテーション等で行き来ができる構造

バルコニー
保育室前に運動場面に面したバルコニーを設置することで、足元からの十分な採光と通風を確保
避難滑り台を設置して緊急時の避難経路としても利用

中庭
園舎の中央に中庭を設けることで園舎内への採光と通風を確保
乳児用遊戯室と一体利用できる形態とし、乳児の安全な遊び場やプール置場として利用



1階平面図



2階平面図

【子育て支援センター】
独立性を持ちながら、事務室から保育園へ出入りできる併設する連携施設として配置、専用の相談室や調乳室、トイレを設置
子育て支援センター利用のこども達が安全に利用できる専用の園庭と菜園を確保
屋根のついた歩道に面して駐車スペースを配置

相談室
プライバシーに配慮した構造とし、また、赤ちゃん駅の利用者のために、授乳・おむつ交換スペースを設置

調理室
抗菌に配慮したドライ仕様
アレルギー除去食、低年齢給食へも対応
食材搬入用の専用出入口を設け、衛生管理のため動線の交差がない区画された調理スペースを設置

ランチルーム
児童が楽しく食事できるスペースを設置
食に関する興味を持ったり調理の様子を見たり交流を持てるよう、調理室に面したガラス窓付の配膳カウンターを設置

図書コーナー
早く食事が済んだ児童の待つスペースにも利用できるようにランチルーム横に設置

アプローチ
セーフティーゾーンとして、園内に入る場合は必ずここを通過することで、来園者を管理できる計画とする
駐車場への飛び出し防止として門を設置

遊戯室
屋内運動場やお昼寝、園行事に対応した機能を整備
雨天時の運動スペースを考慮した広さを計画
楽器演奏や運動に適した空間とするため、勾配屋根を生かして天井高さを確保する
会議や研修等に区切って利用できるようにパーテーションを設置

EV
車いすに対応したエレベーターを設置

トイレ
保育室の近くに配置
3才保育室には専用のトイレを隣接して設置
ドライ仕様の明るく清潔なトイレを計画